

令和4年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第4回第二分科会
開催日時	令和4年8月12日(金) 午前10時から正午
開催場所	葛飾区役所5階 庁議室
出席者	【委員8人】 小松原会長、大伴委員、折登委員、倉持委員、岩田委員、谷本委員、服部委員、荻野委員 【区側5人】 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員3人)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認)

2 答申内容のまとめ

(1) 学校施設を活用した放課後子ども支援事業

会 長：本日は答申に向けた評価結果を見据え、議論を進めていく。まずは成果やコストについて、意見を伺いたい。

A 委員：わくわくチャレンジ広場の児童指導サポーター全体が、いきいきと活動しているとは言い切れないのではないか。

B 委員：自身が把握している数校については、いきいきと活動しているように思う。

A 委員：地域によっては児童指導サポーターの不足から、やむを得ず一部委託運営となっている学校もあり、学校ごとに活動の差がある点は課題である。

会 長：成果が出ている点と、課題がある点を併記することでまとめる。また、分科会では委託料の内容は検証しにくい、コストの縮減について今後の方向性で触れられればと考える。今後の方向性について、意見を伺いたい。

C 委員：委託業者が見守りだけでなく具体的にどういったサービスをしているのかが不明であるため、委託業者へのヒアリングを行いサービス内容の精査をしてほしい。

A 委員：委託によるわくわくチャレンジ広場について、サービス内容が見守りのみであればコストが高いと考える。委託するのであれば、見守

りだけでなく、子どもたちが楽しんで参加できるイベントを企画させ、委託内容の充実を図るべきである。

- D 委員：児童指導サポーターの募集については、児童指導サポーターの年齢層が不明であると応募を躊躇することが考えられるため、働いている人の写真を募集チラシに載せるなど、イメージがわくよう工夫をしてほしい。また、募集の際に簡単な選考としているが、どのような内容か分からないと敷居が高く感じるのではないかな。
- E 委員：わくわくチャレンジ広場は、子どもたちが自由に遊ぶ中で、怪我などの事故が起きないように見守ることが主な目的だと思う。見守りを委託業者へ依頼するのであれば、教育関係以外の事業者でも担えるのではないかと考える。
- F 委員：高校生や大学生がアルバイトとして児童指導サポーターに従事することは、子どもたちから勉強や進学についての質問を受けるなどの交流も想定できるため、地域の活性化につながると思う。
- A 委員：社会人も児童指導サポーター募集の対象として良いのではないかな。また募集については、社会人サークルにも声がけてはどうか。
- F 委員：児童指導サポーター確保のために、わくわくチャレンジ広場に参加していたOB・OGのコミュニティを作り、そこへ児童指導サポーターを依頼することも良いのではないかな。
- G 委員：高校や大学のボランティア部にも声がけをし、わくわくチャレンジ広場の委託運営を避けられると良いと思う。
- D 委員：学童保育クラブ、サマーチャレンジ、わくわくチャレンジ広場をコーディネートする案として、3事業における課題などの情報を共有する場の設置を提案したい。
- 会 長：これまでに出了意見をもとめ、最終的な評価結果とする。

(2) 防災の意識啓発

- 会 長：まずは成果やコストについて、意見を伺いたい。
- A 委員：現行の成果指標では成果が分かりづらいため、一定の成果が出ていると判断することは難しいと思われる。
- C 委員：評価表の活動指標で設定している「若年層向け防災啓発キャラバン」や「防災講習会・ワークショップ」が回数ベースの実績になっていることから、どのくらいの人数に啓発したのかが分かりにくくなっていると考える。
- 会 長：現在提示されている成果指標では、活動指標との因果関係が不明であり効果を把握しにくい点を意見とし、今後は新たに成果指標を追加する点を提案としてまとめる。それでは、今後の方向性について、

意見を伺いたい。

- D 委員：所管課から、20代などの子育て世代に向けた啓発事業案が示されているが、ターゲット層として少ないと思われる。
- C 委員：20代の防災意識が他の年代と比べ若干低いといった成果指標に基づいたものだったかと思う。
- A 委員：所管課が検討している啓発事業案については賛成であるが、20代や子育て世代にターゲットを絞るのではなく、幅広い世代へ啓発をしてほしい。
- 会 長：防災活動の担い手は各世代で必要になると思われるため、意識啓発の担い手のターゲットは絞らず、各世代に向けた啓発を充実させるべきである。また、地震や水害、女性向けの啓発事業を含めた防災の意識啓発事業は、担当課をひとつにまとめることも提案する。
- A 委員：ケーブルテレビの内容を録画したDVDは、小学校だけでなく、中学校の授業でも活用してほしい。
- F 委員：YouTubeの動画について、大事なのは視聴者が興味を持てる内容にすることである。仮に長い動画にする場合は、最初にダイジェストを流すことで興味を持たせることもテクニックとしてある。また、YouTubeには分析ソフトもあるため、作ることで終わりとするのではなく、分析を行いその結果を次の動画制作に反映させてほしい。
- 会 長：ケーブルテレビについては、効果が出ているか疑問であるため、視聴率が低いといった結果になるのであれば、他の事業へコストを移すことを提案したい。
- E 委員：意識啓発事業はすぐに結果がでるものではないため、繰り返し啓発をしていくことが大事だと考える。
- D 委員：区公式ホームページだが、フォントが同じであるため、メリハリがなく見づらくなっている。また啓発をする際は、災害時における区の強みを示してはどうか。
- A 委員：防災マップと水害マップの作成する課を統合することで、お互いの良い点を共有でき、より分かりやすいマップになるのではないか。
- 会 長：これまでに出了意見をまとめ、最終的な評価結果とする。

3 その他

(事務局より事務連絡)

4 閉会